

































































**親戚** 東鑑四卷三年、進親類、獻上書  
 二、魏書、百官、百有餘、明惠有才行、  
 忠諫、且内外親類、莫有求者。  
**じんるゐ** 人類 (名) 人のたぐひ、  
 他生物に對していふ。莊子「生物哀之、  
 人類憐之」淮南子「獨愛、養生而不愛、人  
 類、不可謂仁」**じんるゐ** 人類 (名) 江戶  
 時代、幼者、癩疾者等に於て本刑に處するこ  
 とを得ざる犯罪人を、其の親族に下付し  
 て禁め置き、生長及び平癒を待ちて本刑  
 に處すること。御定書百箇條條五十四條下  
 「子心にて無辨人を殺し候もの給はば、違  
 島」  
**しんるゐがき** 親類書 (名) 親類の  
 關係を記したる文書。祝職草十八卷、親  
 類書。  
**じんるゐがく** 人類學 (名) 人類  
 の異同、起源又は發達等に就きて研究す  
 る學問。  
**じんるゐけう** 人類教 (名) じんだ  
 うけう (人道教) に同じ。  
**しんるゐすぢ** 親類筋 (名) 親類  
 の關係あるもの。義妹など夫婦同様の  
 のなじみを重ぬること。又、その人。  
**しんるゐづきあひ** 親類附合 (名) 親  
 類間の交際。一代女、しんるゐづきあ  
 ひ彼れ是れ暇なく、いつともなしに、目  
 には見えずして金銀、らして、親類に  
 あらざるものと親類同様の交際をすること。  
**しんるゐながあづけ** 親類永預 (名) 江  
 戸時代、心神喪失者などに於て本刑に處  
 することを得ざる犯罪人を、終身間其の  
 親族に下付して禁錮し置くこと。  
**しんるゐぶん** 親類分 (名) 親類  
 の如くに交際する人。しんるゐぶんづきあ  
 ひ。

**しんれい** 新令 (名) 新に發布せら  
 れたる命令。新に制定せられたる法令。  
 行政警察規則、違告布達等總て新令  
 の出るに付、明治二十四年勅令第六十  
 五號「新令施行の當日」  
**しんれい** 新例 (名) 新らしき例證。  
 大戴禮、陽之精氣曰神、陰之精氣  
 曰靈。神のみにたま。又、神の靈徳。職  
 國策、非社稷之神靈、即離離不守。史記  
 神靈之休、祐福兆祥。靈妙なる智  
 識。史記五帝、生而神靈、弱而能言。  
**しんれい** 心靈 (名) 心意の主體。  
 心魂。精神。附書、詩者所以導達心  
 靈、歌詠情志者也。  
**しんれい** 臣隸 (名) けらい。臣下。  
 南史、時臣隸爭求權寵。  
**しんれい** 浸體 (名) きりすと教に  
 て洗禮の一種。全身を水に浸して行ふ  
 もの。  
**しんれい** 振鈴 (名) 鈴を振りならすこ  
 と。盛衰記、振鈴聲を斷ちて、一夏  
 安居の佛前もなければ、供花の薫りも絶  
 えにけり。太平記、中宮、振鈴の聲は被  
 殿に響きて、如何なる惡魔、怨靈なりと  
 障礙を難成とぞ見えたりけり。法苑  
 珠林、王乘象雲振鈴告言、宣示一切。  
**しんれいけうかい** 浸禮教會 (名) 浸  
 禮派の教會。はぶすと教會。  
**しんれい** 浸禮派 (名) きりすと  
 教の一派。其の信徒となる儀式に浸禮を  
 用ふるもの。  
**しんれい** 臣僚 (名) 多くの臣下。  
 又、役人とも。舊唐書、宰相臣僚同心  
 輔助。  
**しんれい** 診療 (名) 診察と療治と。  
**しんれい** 新曆 (名) 新らしく出

でたる曆。新らしきこよみ。隋書、夏  
 四月戊寅、頒新曆。太陽曆。太陽曆。太  
 陰曆を舊曆といふ。  
**しんれつ** 森列 (名) おごそかにならぶこ  
 と。李白詩、太白何若蒼、星辰森列。  
**しんれつ** 深裂 (名) 植物學上の用  
 語。植物の葉の殆ど中軸にまで深く分  
 裂すること。えふえん、葉縁を見よ。  
**しんろ** しのどの詠り。生玉心中、  
 「嚙小辨もしんろかる、己れもくわを抜か  
 した」  
**しんろ** 新路 (名) 新開の道路。し  
 んみち。新道。即詠、新路如今穿宿雲、  
 段成式詩、半坡新路帶纒了。  
**しんろ** 進路 (名) 進みゆく路。ゆ  
 くて。前路。  
**しんろ** 針路 (名) 舟の進行すべき  
 航路。  
**しんろ** 展樓 (名) しんきろう展  
 氣樓に同じ。史記、海旁展氣、象樓  
 臺。蘇味道詩、還疑展樓樓。  
**しんろ** 展陋 展陋 (名) 容貌のみに  
 なく、心も粗末、外示質素。世説  
 新、最展陋、自稱甘草。  
**しんろく** 甚六 (名) 痴愚なる人を  
 いふ隱語。  
**しんろくかせん** 新六歌仙 (名) 六  
 歌仙の外に、後世に選みたる六人の歌  
 仙。即ち、藤原良經・慈圓・藤原俊成・藤原  
 定家・藤原家隆・西行の稱。  
**しんろん** 新論 (名) あらたなる議  
 論。新説の論説。  
**しんわ** 神話 (名) 太古の神に關す  
 る傳説。神代に關する諸種の説話。  
**しんわ** 親和 (名) しんくわ親和に同  
**じんわ** 人和 (名) 衆人の和合。じ

んくわ。  
**しんわ** 親王 (名) 昔時、皇太  
 子の外の皇族男子に宣賜せられたる稱  
 號。著聞、冠者自ら、我れは親王なりと  
 稱し。皇太子より皇孫に至るまでの皇  
 族男子の稱號。現在の皇族五世以下に於  
 てこの稱號を宣賜せられたる者は舊により  
 てこの稱號を有し、又、支系より入りて大  
 統を承けたる天皇の兄弟に於て王たる者  
 は、此の稱號を宣賜せらる。皇室典範、  
 「皇太子より皇孫に至るまでは男を親王  
 女を内親王とし」  
**じんわ** 人皇 (名) おほきみ。す  
 めらぎ。天皇。  
**しんわがしら** 親王頭 (名) 俳優  
 のかつらの一。皇子の姿を模したるも  
 の。  
**しんわさ** 親王旗 (名) 親王を表  
 章する旗。明治二十二年宮内省達第十七  
 號「親王旗」  
**しんわらけ** 親王家 (名) 親王の稱  
 號を許されたる皇族の家筋。  
**しんわらせんげ** 親王宣下 (名) 親  
 王の稱號を許さるる宣旨。  
**しんわらたい** 親王代 (名) 古昔、  
 大體の日適當なる人を選び、親王に代は  
 りて勤めしむる臨時の官。  
**しんわらほむ** 親王代 (名) 古昔、  
 大體の日適當なる人を選び、親王に代は  
 りて勤めしむる臨時の官。  
**しんわら** 秦  
 王破陣樂 (名) 雅樂の  
 乞食調の一。  
 唐の太宗の作  
 りしもの。七  
 徳の舞。和名、乞食調曲。秦王破陣樂。  
**しんわらひ** 親王妃 (名) 皇族の



(くらんぢはうわんし)

一。親王の配偶者。其の敬稱を殿下と  
 す。皇室典範八條「親王親王妃」  
**しんわらもんせき** 親王門跡 (名) 伏見、有栖川、桂の三家の親王より繼承す  
 る門跡の稱。憲教類典、三家之親王よ  
 り御繼ぎ候を親王門跡と申す。  
**しんわがく** 神話學 (名) 神話を研  
 究する學問。  
**しんわがめ** 植 (名) 石蓐の異  
 名。  
**しんわがめ** 親和染 (名) しんなぞ  
 め親和染に同じ。  
**しんわ** 新葉 (名) 刈りたるば  
 かりの稻より取りたる葉。熱湯を注ぎ  
 て乾したる淺緑色の早苗。女の根がけに  
 用ひらる。芭蕉句「しんわらの出そめて  
 早きしぐれかな」  
**しんわらうり** 新葉賣 (名) 新葉  
 を賣りある女。  
**しんわりびき** 眞割引 (名) 商「手  
 形などを割引引きするにあたり、其の手  
 形面の金額につきて利子を計算すること。  
 即ち、手形面金額に對する利子と手取  
 金の合計が、手形面金額となる様に  
 計算すること。そとわりびき (銀行割引  
 の對)  
**しんわりよく** 親和力 (名) しんく  
 わりよく (親和力) に同じ。  
**しんわ** 身位 (名) 身分と位地と。  
 皇室典範增補、皇族の身位其の他の權  
 義に關する規程。宮中席次令、三條同順  
 位の者の間に在りては本令中別段の定め  
 る場合を除くの外其の身位を得たる日の  
 前後に従ひ、同位同一人にして二箇以  
 上の身位を有するときは、  
**しんわ** 神位 (名) かみかみかぶり  
 (神冠) に同じ。神のくらゐ。靈位。周  
 禮、室堂、建國之神位、社稷、左、宗廟。

**しんわ** 新令 (名) 新に發布せら  
 れたる命令。新に制定せられたる法令。  
 行政警察規則、違告布達等總て新令  
 の出るに付、明治二十四年勅令第六十  
 五號「新令施行の當日」  
**しんわ** 新例 (名) 新らしき例證。  
 大戴禮、陽之精氣曰神、陰之精氣  
 曰靈。神のみにたま。又、神の靈徳。職  
 國策、非社稷之神靈、即離離不守。史記  
 神靈之休、祐福兆祥。靈妙なる智  
 識。史記五帝、生而神靈、弱而能言。  
**しんわ** 心靈 (名) 心意の主體。  
 心魂。精神。附書、詩者所以導達心  
 靈、歌詠情志者也。  
**しんわ** 臣隸 (名) けらい。臣下。  
 南史、時臣隸爭求權寵。  
**しんわ** 浸體 (名) きりすと教に  
 て洗禮の一種。全身を水に浸して行ふ  
 もの。  
**しんわ** 振鈴 (名) 鈴を振りならすこ  
 と。盛衰記、振鈴聲を斷ちて、一夏  
 安居の佛前もなければ、供花の薫りも絶  
 えにけり。太平記、中宮、振鈴の聲は被  
 殿に響きて、如何なる惡魔、怨靈なりと  
 障礙を難成とぞ見えたりけり。法苑  
 珠林、王乘象雲振鈴告言、宣示一切。  
**しんわ** 浸禮教會 (名) 浸  
 禮派の教會。はぶすと教會。  
**しんわ** 浸禮派 (名) きりすと  
 教の一派。其の信徒となる儀式に浸禮を  
 用ふるもの。  
**しんわ** 臣僚 (名) 多くの臣下。  
 又、役人とも。舊唐書、宰相臣僚同心  
 輔助。  
**しんわ** 診療 (名) 診察と療治と。  
**しんわ** 新曆 (名) 新らしく出

でたる曆。新らしきこよみ。隋書、夏  
 四月戊寅、頒新曆。太陽曆。太陽曆。太  
 陰曆を舊曆といふ。  
**しんわ** 森列 (名) おごそかにならぶこ  
 と。李白詩、太白何若蒼、星辰森列。  
**しんわ** 深裂 (名) 植物學上の用  
 語。植物の葉の殆ど中軸にまで深く分  
 裂すること。えふえん、葉縁を見よ。  
**しんわ** しのどの詠り。生玉心中、  
 「嚙小辨もしんろかる、己れもくわを抜か  
 した」  
**しんわ** 新路 (名) 新開の道路。し  
 んみち。新道。即詠、新路如今穿宿雲、  
 段成式詩、半坡新路帶纒了。  
**しんわ** 進路 (名) 進みゆく路。ゆ  
 くて。前路。  
**しんわ** 針路 (名) 舟の進行すべき  
 航路。  
**しんわ** 展樓 (名) しんきろう展  
 氣樓に同じ。史記、海旁展氣、象樓  
 臺。蘇味道詩、還疑展樓樓。  
**しんわ** 展陋 展陋 (名) 容貌のみに  
 なく、心も粗末、外示質素。世説  
 新、最展陋、自稱甘草。  
**しんわ** 甚六 (名) 痴愚なる人を  
 いふ隱語。  
**しんわかせん** 新六歌仙 (名) 六  
 歌仙の外に、後世に選みたる六人の歌  
 仙。即ち、藤原良經・慈圓・藤原俊成・藤原  
 定家・藤原家隆・西行の稱。  
**しんわん** 新論 (名) あらたなる議  
 論。新説の論説。  
**しんわ** 神話 (名) 太古の神に關す  
 る傳説。神代に關する諸種の説話。  
**しんわ** 親和 (名) しんくわ親和に同  
**じんわ** 人和 (名) 衆人の和合。じ

極めてすぐれたるおもむき。宋書、王僧敬  
 弘神韻冲簡、識高標峻。  
**じんわん** 人員 (名) ひとかず。人  
 數。  
**じんわんきよく** 人員局 (名) 明治  
 十二年十月十日陸軍省内に置きたる一  
 局。將官、參謀、步兵、騎兵、憲兵、輜重兵  
 の各科及び馬醫部、軍部人員調査の  
 事を掌るもの。同十四年十一月十日廢せ  
 られたる。明治二十年十月太政官達第三  
 十九號陸軍省職制事務章程、人員局  
**じんわん** 仁惠 (名) じんけい (仁惠)  
 に同じ。平治、唐氏、唐亮、唐亮の仁惠に  
 誇り。  
**しんわい** 親衛 (名) 天皇の御身  
 邊の護衛。皇宮の守護。この名。押鹽餘  
 話「周世宗、始募天下亡命、資於帳下、立  
 親衛之兵」さいこのまよ左右近衛  
 府の唐名。書言字考節用「近衛府唐名、  
 親衛」  
**しんわいかう** 親衛校尉 (名) し  
 んわい (親衛) の唐名。拾芥抄、中書、將  
 監 (親衛)  
**しんわいたいしやう** 親衛大將  
 軍 (名) 古昔のたいしやう (大將) の唐  
 名。拾芥抄、中書、近衛大將 (中書)  
**しんわいちゆうらうしやう** 親衛中  
 將 (名) 古昔のちゆうらう (中將)  
 の唐名。拾芥抄、中書、中將 (中將)  
**しんわいらうしやう** 親衛郎將 (名)  
 古昔のせうしやう (少將) の唐名。拾芥抄  
 中書、少將 (少將)  
**しんわいりく** 親衛錄事 (名) し  
 んわい (親衛) の唐名。職原抄、將曹、  
 やうさう (將曹) の唐名。職原抄、將曹、  
**しんわん** 神苑 (名) 神社の境内に  
 ある庭園。



大正五年十月五日初版印刷  
 大正五年十月八日初版發行  
 昭和三年十二月一日修正版印刷  
 昭和三年十二月三日修正版發行



著作  
 所有

發行所

東京市神田區通神保町  
 明治二十九年六月設立

著者 松井簡治  
 著作 上田萬年  
 發行者 東京市神田區通神保町九番地  
 右代表者 同所合資會社富山房社長  
 印刷者 坂本嘉治馬  
 印刷所 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地  
 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地  
 株式會社秀英舍

大日本國語辭典第二卷

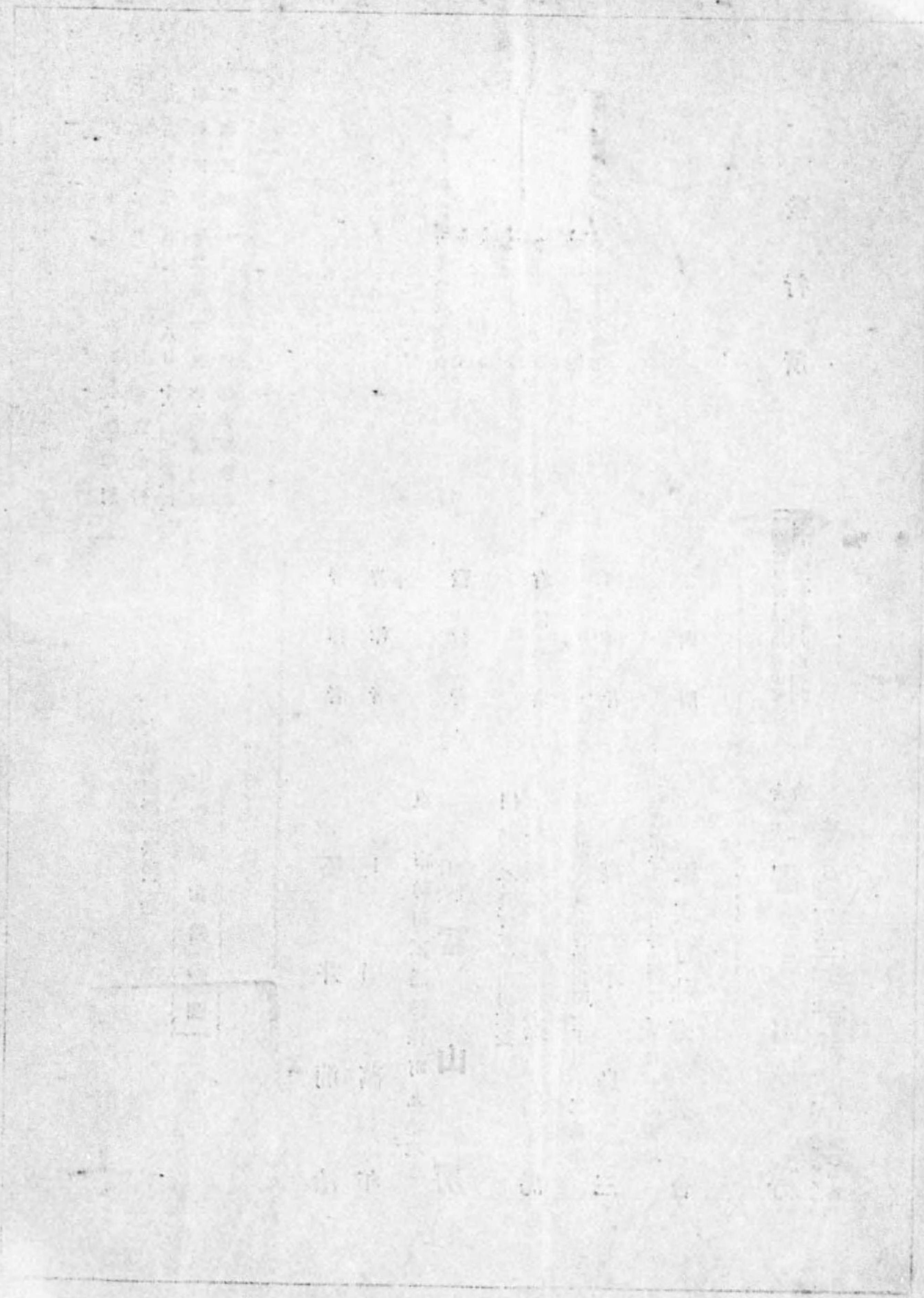
定價金拾參圓



合資會社富山房  
 電話九段自一、九二一番電  
 電話九段五一、九二五番電  
 振替貯金口座東京五〇一番



82-1224





359  
24.

終